

2015年5月 竹パウダーニュース

「竹エキス（竹酢液）で健苗づくり！！」

いよいよ27年産米の春作業がスタートしました。今年は栽培面積の倍増を目標に新規加入者の掘り起こしや面積拡大を図ってきた結果、生産者が1.5倍増の44名、栽培面積が2倍増の43ha（内あきさかり40ha）となりました。

大口の販路として、これまでの大阪・広島に加え、東京への進出も視野に入れた営業活動を現在展開中で増産が急務となっています。

安心・安全で美味しいブランド米づくりに生産者力を合わせていきたいと思えます。

ところで今年の新しい取り組みとして、苗づくりに「竹エキス（竹酢）」を利用しています。竹酢は竹炭を焼くときに発生する竹エキスの濃縮液で200種類以上の成分が含まれ、その総合作用により植物の成長促進に効果があるといわれています。

使用方法は、育苗期間中の苗に500倍希釈液を3～4回程度散布することにより、根張のよい健苗になります。（写真のようにしっかりした根のマットが形成されます。）昔の人も“苗半作”といっているように苗作りが収穫まで大きく影響することから、自家苗づくりの生産者は全員取り組んでいます。



2015年7月 竹パウダーニュース

「ブランド米“里山の夢”東京販売決定！！」

6月18日に東京からイトーヨーカ堂、米卸商社、全農パールライスの担当者が来庄され、山内で取り組んでいるブランド米を視察されました。

庄原グランドホテルでブランド米を使った昼食の後、JA庄原の低温倉庫、カントリーエレベーター、ブランド米栽培圃場、堆肥センターを視察してもらいました。堆肥センターでの竹堆肥づくりには興味深々の様子でした。(写真)

そのあと、意見交換会では庄原市としてのブランド米づくりへの情熱と取り組みを説明させてもらい、東京での販売が決定しました。

26年産3トンと7月より試験販売、27年産30トンは生粳出荷米の“イマ摺り米”として新鮮さという付加価値を付けて売り出すことになりました。

販路の開拓が進んだ現在、生産者として品質の維持・向上に取り組んでいく責任をひしひしと感じているところです。



「“里山の夢” 現地確認会を実施！」

7月13日に竹堆肥栽培の圃場の現地確認会を指導機関である庄原市農業振興課、農業指導員、JA庄原営農センター、広島県立大学と一緒に実施しました。

今年にあきさかりの生産者（45名）、栽培面積（40ha）と昨年比で生産者が1.5倍、面積は2倍に増えました。

現地確認会では、圃場ごとに草丈、茎数、葉色、株間等を調査して生育状況を確認するとともに、栽培管理の方法などについて研修を行いました。



2015年8月 竹パウダーニュース

「大阪の米商談会で“庄原ブランド米”をPR！！」

写真は7月26日に大阪市で開かれた“生産者・JA&コメ取扱店との商談会”のイベントに参加したときのものです。今回で4回目の参加となりますが、今年度は「庄原市ブランド米推進協議会」として、“庄原こだわり米プロジェクト”を推進している①庄原里山の夢ファーム「牛糞竹堆肥米」あきさかり、②藤本農園「あいがも米」ひとめぼれ、③西城町美味しい米作り研究会「西城川の源流米」コシヒカリの3団体でブースを設け、庄原市農業振興課、JA庄原の担当者も一緒に庄原米のPRをさせてもらいました。

この日は、西日本地区のお米マイスターの資格を持ったお米屋さん200名以上が参加され研修会も行われました。商談会へも多くのお米屋さんが来場され、試食をしていただきましたが、甘みがあっておいしいと好評でした。

名刺交換をする中で、今後の取引につながる良い感触を得ることができました。

